

各委員から寄せられた意見

- ・ 東日本旅客鉄道(株)高崎支社 P1
- ・ 前橋工科大学 P2
- ・ 群馬大学 P3
- ・ 共愛学園前橋国際大学 P4-6
- ・ 前橋公共職業安定所 P7
- ・ 群馬県前橋行政県税事務所 P8
- ・ 前橋市都市計画審議会 P9-10
- ・ 群馬銀行 P11
- ・ 日本政策金融公庫前橋支店 P12
- ・ 群馬県信用保証協会 P13
- ・ 前橋市民生委員・児童委員連絡協議会 P14
- ・ 前橋市社会福祉協議会 P15
- ・ 前橋市自治会連合会 P16

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：東日本旅客鉄道(株) 高崎支社

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

1. 非分散型の市街地形成（コンパクトシティ）を目指す。

既存の都市機能を施設更新に合わせて、交通結節点である駅周辺エリアに集約するとともに、今後求められる都市機能についても、駅周辺に集積を図り、非分散型の市街地形成（コンパクトシティ形成）を目指す。

2. 都市の基幹軸（都市軸）を定め、鉄道や道路の交通軸との連携、結節強化を図ること で、両駅（前橋、中央前橋）や官庁街、都市軸に人の流れを創出し、街の再生を図る。

(例)

- ・ 県内各都市や首都圏、新幹線ネットワークへ接続する前橋駅を中心に、市内都市軸を構築する。
- ・ 都市軸に沿って公共施設、集客施設（商業・文化芸術など人が集う施設）の配置を進め、沿道を行き交う人の流れを創出する。
- ・ 駅を拠点に、都市軸に沿った歩行者動線、2次交通（循環バス等）、コミュニティサイクル等を整備し、市内回遊性の向上を図る。

3. ローカル駅周辺エリアの街のリノベーションを図り、良好な居住環境を整備する。

駅周辺エリアに居住地域形成（団地、マンション等）の誘導を図り、市内交流人口の増加を促す。

4. 周辺自治体との連携を図り、県外から訪れる交流人口を市内に誘導する。

積極的な広報宣伝活動と周辺自治体と連携した観光周遊ルートの構築を行う。

その他自由意見

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 前橋工科大学

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- ・ 理念
「人と科学・工学が紡ぐ21世紀の前橋の創生」

- ・ 目標
 - －前橋のニーズをつねに把握し、教育と研究の体制をそれに応えられるように柔軟に組み立てていく
 - －高齢化に対応して、安心して安全に暮らすことのできる前橋を、まちづくりから医療、福祉までの幅広い分野でサポートしていく

- ・ 基本的方向
 - －市内、県内はもとより全国から学生が集まるよう大学の存在意義を高め、前橋地域を、学び、働き、暮らしていくのに相応しい、魅力的な場と考え、その実現に取り組む有用な人材を育成する

その他自由意見

- ・ 企業には、前橋での雇用創出について、幅広く積極的に対応していただきたい
- ・ 前橋外から前橋地域へ学びにきた学生が、前橋で生活していこうと感じられる施策を望むとともに、本学もそれに応える体制を整えたい

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 群馬大学

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

■基本的考え方：地域活力の創出は地元住民自身による活躍が源

住民の活動が地域住民自身にとって価値（平たく言えば、利益）を生むものであること
行政ができるのは、価値を生むことを住民自身が自覚する・できるような仕掛けを作ること

■人の流れの新たな創出

- ①県内大学の活性化（県外・海外から教育機会を求めて流入する若年層の創出。市内の企業などでのインターンシップの充実による地域意識の涵養。企業等との共同研究・開発の拡大。）
- ②グローバル化に伴う留学生・外国人の増大（異文化混在・多文化共生の意識体験）
- ③地域の高度な産業技術力・公設機関を活かした、海外技術者の研修・再教育の場の提供（国際交流）
- ④交通の便の良さに基づく地域産業力の強化・充実
- ⑤前橋市の文化、赤城山などの自然、田園地域・温泉などへのアクセスの良さ等、観光を介した、ひとの交流の機会、ひとの流れの創出
- ⑥東京圏（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）と群馬・前橋の共生圏の形成
- ⑦駅を基点とした、人の流れを導くまちなみの創出（駅が存在が住民の意識に与える影響は大きい）
- ⑧点から線、面へとまちなみをつなげる（各ブロックの特徴を明確に）

■前橋市のイメージ戦略の構築

市民が愛着と誇り（これがしっかりとあれば、まちに活気がうまれる）をもつことができ、前橋市を一言でイメージさせるもの（キャッチフレーズ）の宣伝。「水と緑と詩のまち」？ これから連想するのは、文化を軸にした静かで落ち着いたまちなみ。しかし、これを実感できるか？

■魅力ある前橋市の整備

前橋市を文化都市として成長させていくという観点から、前橋の環境を活かした、企業等の研究・開発施設の誘致

その他自由意見

■基本的考え方：地域活力の創出は地元住民自身による活躍が源である

地元のエネルギーを引き出す上で、行政や外部からの活動は一時的な引き金にはなりえても、そのエネルギーを持続させるには、地元の住民自身が主体となって動き、参加したくなるテーマを住民自身が策定し、活動参加への動機づけやいろんな世代をまたいで参加できる仕組みを設定していくことが必要であろう。その第一のファクターは、その活動が住民自身にとって価値（平たく言えば、利益）を生むものでなければならない。行政ができるのは、価値を生むことを住民が自覚するような仕掛けを作ること。

あるテーマのイベントを行うにしても、資金を行政が全部負担してしまうと、他人任せ・他人事になってしまい、自分たちはお客さんになってしまう（多くのイベントがそうで、続かない）。イベントをやるにしても、企画・内容は住民自身が決め、経費の半分だけを行政が負担し、終わってから行政が残りを補填する。こうすれば、お金の流れが地元の中でおきるので、利益を出そうという意識も生まれる。このようなプランの1割でも、2回目・3回目が続けば、それを行政が積極的に支援すればよい。

市内の住民（学生や高校生なども可）によるイベントの企画と提案、それへの市民の投資（一部を行政も）、イベントの実行による収益・資金の回収、投資者への配当・還元というスタイルも考えられる。これは企業化、創業支援のひとつにもなりうる。

前橋に来て実感するのは前橋の人は精神的に裕福であり、現状を変えていこうという意識があまりないように感じられること。人口減少問題も実感はないのではないかと（人口ピラミッドを見ても人口流出という感じはない）。市外からの人口流入が相当数あるのではと思われる（その分だけ、市外の周辺地域の人口減少の影響が大きく出てくる）。前橋市だけでなく、周辺地域の人口動態のデータを基に、将来の姿を周知・理解してもらうのが必要ではないか。

■前橋市のイメージ戦略

駅北側に集中している行政施設、企業オフィス街、文化施設の集約度を高めると同時に、この中心に前橋市の歴史・文化の象徴となるものを設けることが考えられる。ヨーロッパの町などがそうであるように、まちの中心には教会などのモニュメントがあり、そのすぐ近くには公園がある。前橋公園の整備・充実とともに考えてみてもいいのではないかと。（できれば、町の中心街辺りにあると、町のイメージとつながってくる）

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 共愛学園前橋国際大学

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

人口が流出する顕著な機会、進学時と最初の就職時と言われており、その時期をとらえて地元への進学、地元への就職を可能とすることが、大学という機関に関わる地方創生のポイントとなると思います。

共愛学園前橋国際大学は、前橋市と包括連携協定を、前橋市教育委員会と教育連携の協定を持ち、地学一体の事業を展開してきました。特に2014年度からは文部科学省より「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の実施大学に選定され、前橋市と一体となり地域（産業）人材育成と地域ブランド向上に取り組みながら、持続可能な地の拠点形成を目ざしているところです。また、同じく文部科学省の「スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(GGJ)」の拠点大学として地域連携による「飛び立たないグローバル人材（＝グローバルリーダー）」の育成、「大学教育再生 加速プロジェクト(AP)」の拠点大学として地域産業人材要件の抽出や社会人基礎力等ジェネリックスキルの涵養とその成果の可視化に取り組んでいます。

これらの事業のその先には、地元への若者の留まりや呼び込みが位置づいてくると思われますが、そのコンセプトは、前橋で学び、前橋で働いて、前橋で家族を形成して、その子ども等がまた前橋で学んで・・・というサイクルが醸成される街づくりだと思います。そうしますと、学びの充実、就業先の確保、子育てのしやすさ、こういったことが充実していく必要があるでしょうし、地域産業界ニーズを満たす人材育成を推進していくことも大学の重要な使命と考えています。

上記を踏まえ、理念や目標、基本的方向の案を下記のように考えました。

・ **理念**：若い世代の「**学び⇒働き⇒生み⇒育て⇒学び**」サイクルが醸成される街づくり

・ **目標**：①市内（県内）大学等への市内外18歳進学率の向上（留まりと流入）

②市内（県内）大学等卒業生の地元就職率の向上

③市内大学等の卒業生の子ども市内学校進学率の向上

・ **基本的方向**

① **関係**： 高大接続事業の創出

地元学生受入大学等への支援

市内大学連携による他県への周知等の実施

② **関係**： 大学等と産業界による地域産業人材要件の検討

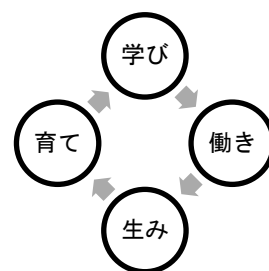
大学等と行政・産業界との連携による地域人材育成事業の創出

大学等と産業界の関係強化と地元人材採用枠の創出

③ **関係**： 大学等と産業界の関係強化と地元人材採用枠の創出（再掲）

地元出身者並びにその子どもへの奨学制度の創出

大学等と行政が連携した子育て支援事業や次世代育成事業の創出



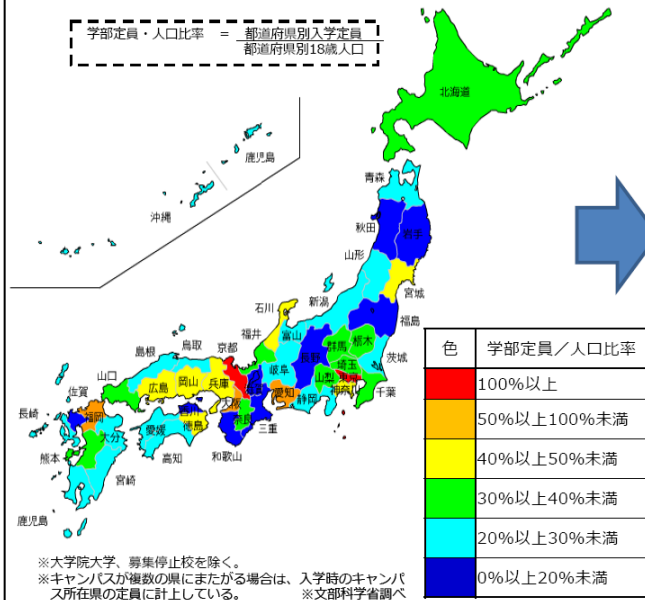
(参考資料)

大学進学時における地方間人口移動

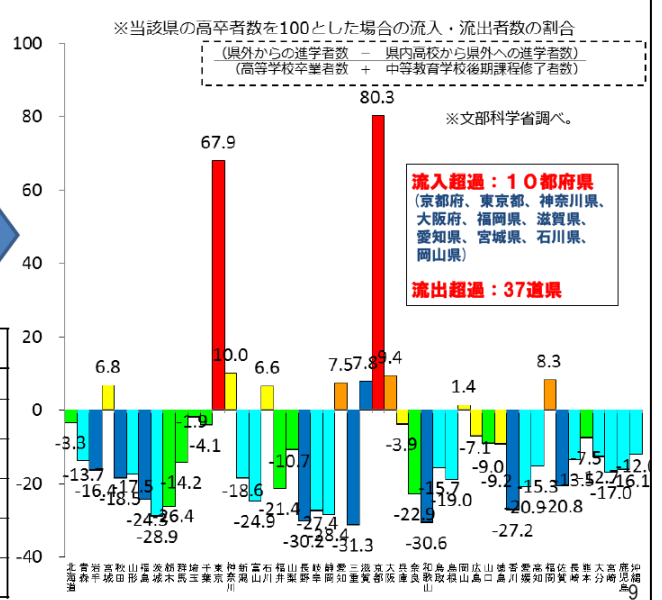
○ 地方と都市の間を人が移動する機会は、「大学等への入学」、「最初の就職」、「40代ごろの転職・再出発」、「定年」の4つがあるとされている。「人の流れ」を変えるためには、これらを地方に人を呼び込む好機としてとらえるとともに、さらにこの4つ以外にも移動の機会を増やしていく努力が重要である。(日本創成会議・人口減少問題検討分科会「ストップ少子化・地方元気戦略」より)

「学部定員・人口比率」が低い県では、大学進学時に流出超過の状態となっている。

都道府県別「学部定員・人口比率」(平成25年度)

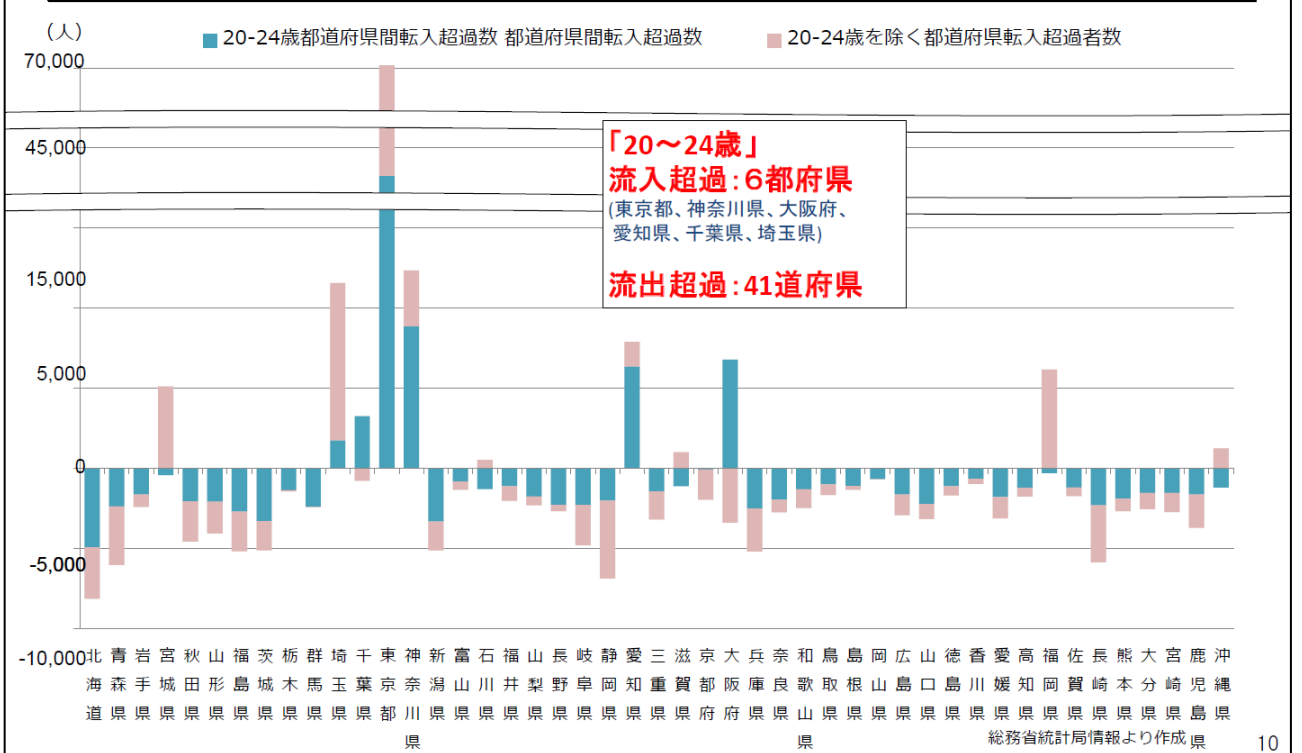


大学進学時の都道府県別流入・流出率(平成25年度)



「20~24歳」における都道府県間人口移動

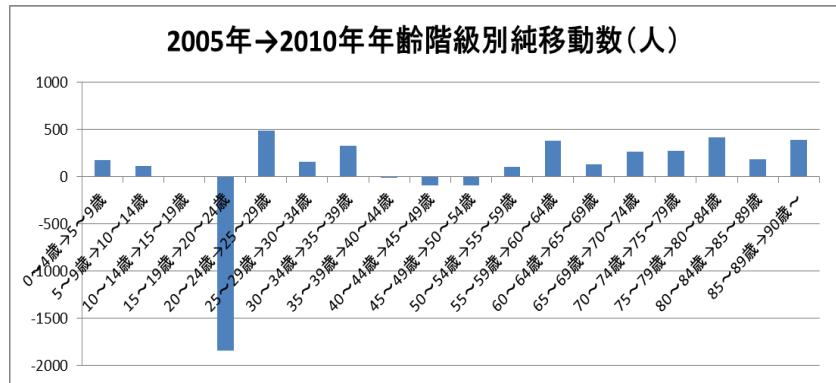
○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出(平成25年間)



その他自由意見

① 前橋市のみでの人口移動数をみても、進学・就職時期の流出が顕著であることがわかります。

2014年の20歳未満の転出超過数上位は下記のとおりであり、県外が多くなっています。



2014年 転出超過先

- 1位 群馬県吉岡町 15人 (3%)
- 2位 東京都国分寺市 9人 (1.8%)
- 3位 東京都八王子市 9人 (1.8%)
- 4位 東京都杉並区 9人 (1.8%)
- 5位 東京都世田谷区 9人 (1.8%)
- 6位 埼玉県熊谷市 9人 (1.8%)
- 7位 宮城県仙台市青葉区 8人 (1.6%)
- 8位 長崎県長崎市 7人 (1.4%)
- 9位 山梨県南アルプス市 7人 (1.4%)
- 10位 神奈川県横須賀市 7人 (1.4%)

その他(348人)

- ② まち・ひと・しごとの政策パッケージのうち、総務省+文科省の事業について（COC +や奨学金関連）、市としてどう対応するかについてお聞きできるとありがたいです。
- ③ 群馬県内の大学の入学定員は、18歳人口に対して3~4割となっています。大学進学率を50%としてもまだ全員を受け入れられる定員となっていません。大学単体では、定員を増やすコストとリスクが大きいので、地元学生を受け入れる大学が、受入枠を増やすためには、何らかの支援が必要かもしれません。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 前橋公共職業安定所

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

1 理念

前橋に「しごと」をつくり、前橋へ「ひと」を呼び込み、「ひと」の暮らしを支える「まち」が活性化する好循環・相乗効果をつくる。

2 目標

前橋に安定した雇用を創出し、若い世代も含めて、前橋に住み、働く環境を整備する。

3 基本的方向

➤ 前橋に仕事をつくり、安心して働けるようにする。（魅力ある就業の機会を創出）

- ・ 地域産業の競争力を強化
（競争力のある産業分野の選定）
- ・ 企業の地方拠点を強化
（企業移転・本社移転等による就労の拡大と地方採用の推進）
- ・ 優秀な人材の確保と人材育成の促進
（産業集積や企業誘致等の実現には、人材の質と量が重要）
- ・ 多様な働き方の確保
（若者、女性、高齢者、障害者等の活躍の推進）

➤ 前橋への新しい人の流れをつくる。（前橋での仕事と暮らしのイメージ化）

- ・ 地方移住、UIJ ターンの促進
（仕事、住まい、暮らしの情報をセットで提供）
- ・ 学生の地元進学への促進
- ・ 学生の地元就職への促進
（大学生、高校生の地元就職割合の向上）
 - ・ ・ 地元就職を促進するための求人確保とマッチング機会の提供
（企業情報の提供、就職面接会の開催等）

その他自由意見

実施にあたっては、近隣自治体との連携も重要。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 群馬県前橋行政県税事務所

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- ・県では、企画課未来創生室を事務局として、「人口減少対策の観点から、群馬ならではの新しい発想で、施策を総点検・再構築し、群馬の未来創生のための施策を部局横断的に推進すること」を目的に「群馬の未来創生本部」を設置している。
- ・現在、企画課において、平成28年度を開始年度とする次期群馬県総合計画を策定するべく準備を進めているが、この計画は、従来の「総合計画」と人口ビジョン部分を含んだ「地方版総合戦略」を一体的に構成することとしている。
- ・「地方版総合戦略」に掲げる県全体の「理念」、「目標」、「基本的方向」等については、今後の策定作業の中で、示されるものと考えている。

その他自由意見

- ・前橋行政県税事務所は、群馬の未来創生本部の構成員であり、今年度、次期群馬県総合計画における地域別施策展開を策定するにあたり、地域の意見を聴くため、前橋地域の地域懇談会を設置する予定である。
- ・前橋市に所在する県の地域機関として、前橋市の総合戦略の「理念」、「目標」、「基本的方向」と連携・協調した県の前橋地域における地域別施策展開を策定するため、県都まえばし創生本部、前橋地域の地域懇談会等で意見交換していきたいと考えている。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 前橋市都市計画審議会

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

■前橋市都市計画審議会の代表というかたちで本会に参加しているが、ご存じのとおり都市計画審議会は案件ごとに審議を行う会故に、この提案・意見は会長である松井淳が他の都市計画関連委員会等に出席して感じ、考えた個人の意見であることを先ず述べておく。

■中核市となった現在の前橋市は総面積 311.59km²、人口 335,250 人、人口密度 1,080 人/km²の典型的な地方都市といえる。近隣の高崎市は、総面積 459.16km²、人口 371,485 人、人口密度 809 人/km²であり首都圏周辺の大都市とは異なる市面積と人口の関係が見られる。（参考：さいたま市・総面積 217.43km²、人口 1,252,601 人、人口密度 5,760 人/km² 人口密度に大きな差が見られる）

■このような市全域の面積に対し人口密度が低い都市では市全域に人口を拡散させるのではなく、集約させることが市民生活における安全性、安心感、利便性を担保する唯一の方法となる。本年 3 月には第六次前橋市総合計画改訂版に即し都市計画マスタープラン改訂版が策定された。その中にも「コンパクトなまちづくり」、「環境負荷の少ないまちづくり」、「美しい景観のまちづくり」、「活力あるまちづくり」、「安全安心なまちづくり」の 5 項目が挙げられているがこの 5 項目を実現することが前橋市の都市計画の理念である。

■「コンパクトなまちづくり」と「コンパクトシティ」

近年、コンパクトシティという概念が語られることが増えている。少子・高齢化社会を背景としたコンパクトシティとは、歩行あるいは自転車で移動可能な範囲（半径約 500m）に、多様な職業、年齢の人々が居、彼らのためのサービスを行うプログラム（商業施設、教育施設、文化施設、福祉施設、医療施設、市役所出張所等）が備えられ、かつ居住者もいる、混在した都市の在り方を示す言葉であると私は理解している。混在したプログラムで創られるコンパクトシティは機能分化を促進してきたゾーニングの概念で創られた街とは異なるまちづくりの手法である。（*注：コンパクトシティ内を『虫の目』的に見て行くとゾーニングは存在する。用途地域制はある種のゾーニングであるが、実用的機能の区分けではない、例えば活気のある生活ゾーン、憩いのための滞留ゾーンといったかたちのゾーニングが見られる。）

目標 1. 都心核のコンパクトシティ化

前橋市を考える時、コンパクトシティとして成立する範囲は現在、昨年度末、報告書としてまとめられた「前橋市市街地総合再生計画書」に記載される範囲 - 都心核となろう。第六次前橋市総合計画改訂版で計画されている「コンパクトなまちづくり」は都心核、地域核、地域拠点、生活拠点を設定し、拠点間を公共交通機関ないし、道路整備を行うことで面積の広い本市を有機的に結ぶ方法を示した実態に即した都市計画である。

目標 2. 地域核・地域拠点のコンパクトシティ化

かつての行政単位の中心であった地域核・地域拠点は、その土地の持つ歴史、文化、伝統、生活習慣などがあるはずであり、前橋市都心核の郊外にある人口が集中している拠点という位置付けから、コンパクトシティへの方向転換を目指したい。

目標 3. ゾーニングの明解な地域核の形成

地域核の中でも、近年商業施設の集積が急速に進んでいる北関東自動車道前橋南インター周辺は物流拠点、商業拠点としてのコンパクトシティ（混在したまち）とは異なる従来のゾーニングの概念を導入した在り方での開発が望まれる。

その他自由意見

第六次前橋市総合計画改訂版、都市計画マスタープラン改訂版の記載にあるとおり「美しい景観のまちづくり」は重要な視点であると考えている。居住者が自ら暮す「まち」に対し、愛着、誇りをもつことは今後の地方都市の在り方に大きな影響がある。「まち」の景観を誇りに思える街は生活する上で人々に精神的な豊かさが存在することにつながる。その魅力が、その「まち」に住みたいという人を増やすことになれば、地方都市の創生が促進することになると考える。先ず、都心核の開発が今後、進展していくのであればより良い都市景観策定のために、公共空間、建築物のデザインをコントロールする組織を立ち上げることが重要である。

最後に、都市計画は時間のかかるものである。40年前に都市計画決定がされた計画であっても、未だに実現していない場合もある。また、それらの計画の中にも時間が経過することにより現実には即さなくなったケースもある。このような都市計画決定は見直すことが重要であると考えている。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：群馬銀行

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- ・ 地域金融機関として「地域産業活性化」の観点から、以下を提案させていただきます。
- ・ 「理念」
 - 前橋市の強みを生かした「しごと」を創出することで安定した雇用を確保し、若者が将来の希望を持って働ける「まち」づくりを目指す。
- ・ 「目標 1」
 - 地域特性を活かし、安定した雇用を創出する
 - 【基本的方向】
 - ① 県外企業誘致の促進（本社機能、工場等）
 - ② バックアップ拠点としての誘致促進（物流、研究機関、データセンター等）
 - ③ 新ビジネス・新技術・新製品・新商品開発等の支援
 - ④ 創業・第二創業の支援
 - ⑤ 6次産業化の支援
 - ⑥ 若手経営者の育成
 - ⑦ 企業経営を補佐する中核人材の育成
 - ⑧ 専門人材派遣による既存企業の経営課題等支援
 - ⑨ 海外進出・事業展開支援
- ・ 「目標 2」
 - 都市の魅力を高め、新たな人の流れをつくる
 - 【基本的方向】
 - ① 雇用機会増加による定住人口の増加
 - ② 事業承継者や事業の中核的人材の誘致
 - ③ 首都圏からの移住促進
 - ④ 観光資源の活用による交流人口の増加
 - ⑤ 地元企業の情報提供充実等による若年層の人口流出抑制
- ・ 当行としては、上記をはじめとする目標の達成にご協力するために、当行の地方創生に関連する部署が持つ情報やノウハウ、コンサルティング機能等を活かした具体的なご提案、取組みをすることで、前橋市経済の活性化に貢献していきたいと考えます。

その他自由意見

特にございません。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：日本政策金融公庫前橋支店

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

■■■ 理 念 ■■■

○他の都市にない独自の魅力を持った「県都まえばし」づくり

- 強み（水と緑と詩のまち）を一層磨き、弱み（中心市街地の公共交通網）をきちんと補強し、“前橋らしさ”を極める
- 東京一極集中の是正等への具体的な“解決策”を提示できる「県都まえばし」づくり（本社・工場移転、ベンチャーへブン、東京圏からのシニア・シルバー層の定住促進）

■■■ 目 標 ■■■

○皆が「活躍できる“まち”づくり」～住みたい、住み続けたい“まち”まえばし～

- 前橋定住者、U・Iターン、シニア・シルバー層の移住、群馬都民、外国人等や多様な人たちが安心して働ける場所の創出（創業・再チャレンジ支援、女性活躍推進、高齢者雇用、地元特産物ブランドを中心とする農業支援）
- 移住・定住を促進させるために、中心市街地の公共交通網を整備し、魅力を感じる中心市街地開発、教育・医療・介護施設の充実を加速化させ、積極的に情報を発信

<前橋市の特徴>

- 県都として機能＝“つなぐ”
 - ・ 群馬県の中心地としての県内市町村の情報発信機能（前橋から全国へ情報発信）
→ 観光・文化・ビジネス・農畜産物流通・情報の拠点
 - ・ 全国展開組織も含めた地元ネットワークによる支援（前橋市に本店機能が集中）

<参考：当公庫の取組み>

- 創業支援ネットワークによる起業支援
- 女性活躍推進企業（ぐんまいいきGカンパニー認証）への優遇金利融資
- ソーシャルビジネスへの積極融資（NPO法人等）
- 事業再生支援（資本性ローン等）
- 海外展開への支援（スタンドバイクレジット等）
- 新たな農業分野への支援（6次化、農商工連携、産官学連携、農家宿泊所、体験農場等）
- ビジネスマッチング（アグリフードEXPO東京・大阪）
- 教育ローン など

その他自由意見

- 前橋市はすでに地方創生への先駆的取組みを実施。創業の活発化、まちなか居住の促進、社会的課題解決に向けた市民活動の支援や「赤城の恵」等農産品のブランド化支援等。これらは具体的な効果が出てきており、その「芽」を大切にしてい層伸ばしていくべき。
- 地方活性化に欠かすことのできないのが、地元の「核となる人（実行部隊）」の存在。プロジェクト・地域毎に核となる者が現場に存在するのがベストであり、周囲からも認識され、関係団体も支援を惜しまない体制の整備が必要。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名： 群馬県信用保証協会

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- 1 【目標】 前橋市の特性に合った産業経済の活性化を図り、安定した雇用を創出する。
【基本的方向】 開廃業率の逆転減少が続き、企業数が減少を続けている中、創業、イノベーション、事業承継等を積極的に後押しする。前橋市の地域特性を分析し（ハイレベルなものづくり産業。メガネ、豆腐、カラオケ、ウクレレ等の分野で日本を代表する企業が存在。赤城山や萩原朔太郎、絹遺産、豚肉料理など、自然、文学、歴史、食が充実。）、付加価値の高い産業を創出する。これらの施策による産業経済の発展と一体となり、魅力ある職場づくりと労働環境整備を図り、多くの市民が安定して働けるまちをつくる。
- 2 【目標】 「水と緑と詩のまち」ならではの地域ブランドを確立し、新しいひとの流れをつくる。
【基本的方向】 自然、文化、食に恵まれた「水と緑と詩のまち」にある優れたコンテンツを上手にブランディング及びパッケージ化して、住民が地域に愛着と自信を持つことを推進する。地域ブランド力とポスピタリティの向上を図り、U・I・Jターンの希望者にとって魅力的なまちとなり、転出者の減少と転入者の増加を実現する。
- 3 【目標】 ワークライフバランスの実現により、若い世代が安心して結婚・出産・子育てをできるようにする。
【基本的方向】 男女ともに働きながら、結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、労働環境を整備し、雇用水準を高め、仕事と家庭（生活）の調和を実現する。子育てに対する各種サポートを充実させ、負担と不安を解消する。離婚率の高まりにより子供にしわ寄せがある中、再婚支援による家庭の再生を図り、子供の健やかな育成を実現する。
- 4 【目標】 子供からお年寄りまで、心豊かにくらししていけるまちをつくる。
【基本的方向】 市役所周辺を含む中心市街地のコンパクト・シティ化を推進する。中山間地域においては、ワンストップ・サービスが可能となる小さな拠点を配置するとともに、買物難民対策を進める。公共交通網を整備して、交通弱者にとっても住みやすく訪れやすいまちをつくる。

その他自由意見

産業、自然、文化、食などの分野で前橋ならではの特徴・特性・名物であるコンテンツをていねいに拾い上げ、「コト消費」や「地域ストーリー」の観点からブランディング及びパッケージ化して、市の内外に示すことができれば、住民にとっては郷土への愛着と誇りを育み、市外の方に対してはブランド力と観光の面でアピールできる。また、産業経済の活性化にもつなげることができる。

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：前橋市民生委員児童委員連絡協議会

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

・前橋市民生委員児童委員連絡協議会では、地域の方々、関係機関・団体等の皆様と連携しながら、「皆で支え合う福祉のまちづくり」を進めています。

・前橋市内、22の単位地区に分かれ、668名の民生委員が活動しております。児童福祉、高齢者福祉、心身障がい児者福祉の各事業に加え、近年は低所得者に関する援助の機会も増えております。

・地区ごとの活動に加え、3つの研究委員会の活動も行い、「自立支援」「子ども福祉」「地域福祉」のテーマごとに、研修会を開催し、研鑽を深めております。

・特に「子ども福祉研究委員会」を中心として、「地域の子育てサロン」や「のびゆく子どものつどい」など交流活動への参加協力に加え、「学校サポート会議」を通じた個別の支援活動も行っています。

・一方、社会の変化に対応するための、「前橋版総合戦略」においては、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ことが目標の一つとなっています。

・前橋市民生委員児童委員連絡協議会では、今まで培ってきた「皆で支え合う福祉のまちづくり」の経験を活かし、それぞれの事業を推進しながら、「前橋版総合戦略」の推進に貢献できると考えております。

・ここにお集まりの「産・学・官」また「金融・言論」の各分野の皆様とともに、お互いの活動を理解し合い、協力しながら、より元気な前橋市をつくりたいと考えています。

その他自由意見

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：前橋市社会福祉協議会

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- ・前橋市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を使命として、様々な事業を行っています。
- ・特に、地域福祉活動に関する事業では、「ささえあう地域づくり」を基本目標として、「ふくしのまちづくり事業への支援」、「ボランティア活動と福祉教育の推進」、「見守り・支え合い事業の推進」に関する事業を、住民が主体的に行うことができるように支援しています。
- ・また、相談支援に関する事業についても、「住民の不安を確実に受け止める」を基本目標として、「身近な相談支援窓口の設置」、「自立生活の相談支援と権利擁護」、「さまざまな連携の強化」に関する事業を、関係機関や地域住民と連携し行っています。
- ・これらの事業は、平成26年度に策定されました「第2次前橋市地域福祉活動計画」において、行政の取組とともに、社会福祉協議会の取組のなかに記載されています。
- ・一方、社会の変化に対応するための、「前橋版総合戦略」においては、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と連携する」ことが目標の一つとなっています。
- ・社会福祉協議会は、今まで培ってきた「福祉のまちづくり」の経験を活かし、また、地域福祉活動計画におけるそれぞれの事業を推進しながら、「前橋版総合戦略」の推進に貢献できると考えております。
- ・ここにお集まりの「産・学・官」また「金融・言論」の各分野の皆様とともに、お互いの活動を理解し合い、協力しながら、より元気な前橋市をつくりたいと考えています。

その他自由意見

地方創生（まち・ひと・しごとの創生）に向けた提案・意見

団体名：前橋市自治会連合会

貴団体が考える前橋版総合戦略に掲げるべき「理念」や「目標」、「基本的方向」

- ・防災・防犯をはじめ、環境美化や健康づくり、伝統文化の継承など、あらゆる分野において十分な成果を得るためには、地域における支え合いが不可欠である。
- ・この支え合いを将来にわたって維持していくためには、日ごろからのふれ合い・つながりを大切にしていく必要がある。
- ・前橋市においても、人口減少時代を迎え、自治会加入率の低下が続いている中、地域活動の継続が危ぶまれる。
- ・地域に暮らす一人ひとりが自らの地域を見つめ直し、地域活動に参加することの大切さを再認識するとともに、自治会としても地域の特色を発揮し、住民誰もが参加したくなるような地域活動の実現に向けて努力していくため、行政の協力をお願いしたい。

その他自由意見